

小學身訓蒙

安原時太郎
平井義直編輯

二

175
6
214

館籍書會育教本日大			
函架號	四	一	一
	四	三	八
	冊	架	函

K110.1
180
2

安原時太郎 閱
平井義直 編輯

小學修身訓蒙

初等五級

前期ノ續キ及ヒ起居眠食出入行歩等ノ簡易ナル作法ヲ示ス等級適當ノ書ナリ

小學修身訓蒙卷二

安原時太郎 閱

平井義直 編輯

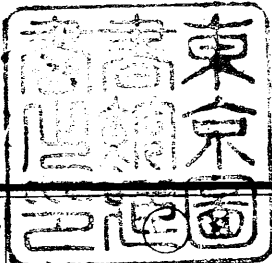
第一章

○人に交る小を礼義を正しくなむ志。

礼義此初ハ先威儀を整ふ大和俗訓

信おかけまハ真此愛敬小何ら信々

人小交るの道あり同



小學修身訓蒙 卷二 一 西園樓藏

○言むつらひい敬ひて無礼ふるべからば。言はれぬがちなは下部の交まじり。同

○貴賤と親疎ふらば愛敬を宗とすべし。愛と主人をいとく。さして惡まざるあり。同

○言を寡くし交は擇めず。以て悔吝おかるおこる。同

○凡、百事成就るや必之を敬む。不在。其敗るや必之を慢るにあり。荀子

○曰季曰く。敬は徳を聚あり。能敬は必徳あり。左傳

○孔子曰く。夫仁者ハ已立んと欲して人を立法。己達せんと欲して人を達し。論語

○凡、一念惡を思ひ。一事惡を行へば。天

外傳 卷之三 二二

道不背之恐るべ

志 初學訓

○人死心信實ある

る。万事の基はし

る。人不交るは道

あり 大和俗訓

○程子曰く。己不發

志て自盡を以て忠

と。物不循ふて違ふはを信

と謂ぬ

○又曰く。人道ハ唯忠信に在る。誠あら

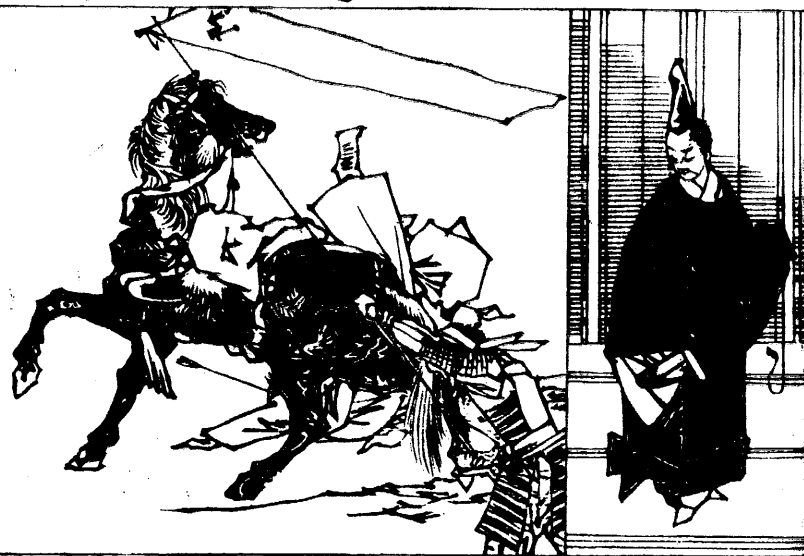
ざれば物あり

○薛文清曰く。人忠信あるば。世に立つ

ざるらば

○又曰く。人を感ぜむるは能わざる

る。皆誠未だ至らざるあり



○程子曰く。忿慾忍ぶと忍ぶさると。便
有徳無徳とを見る

○人禮阿れむ則安く。礼か争む則危

志曲礼

○孟僖子曰く。礼も人死幹あり。礼かけ
むむ以て立法のせあり 左傳

第二章

○善を捨て、為さば。之を自賊ふと謂

婦 大和俗訓

○人と論じるとき須く容貌従容。言語温
厚おふべし。決志と劇烈おふべから

智氏家訓

○凡人儀容あるべからば。儀容なき
り乃ち世人を親睦する能まば。あつ
た徳儀才智あふ人。奇服怪状威儀
を失ふ者也。世人は親睦少からん

小倉書川集 卷之二 二百一十歳

同上

○凡人儀容の善惡ハ。朋友乃善惡ト。自
己此注意不注意との二此者不起原

也 同上

○人と談話を多しを屢にべし。長かふべ
あらば。長談を人疲倦ま志ぬ人に嫌
はる 同上

第三章

○勝を好む者ハ必に争ふ。榮を貪る
者必辱志ぬらる 大和俗訓

○諾を輕んぶる者を信必寡志。面すに
譽る者背必非不 同上

○己の心不勝者ハ能人に勝ち。己が心
に負る者能人に負るを至 和論語

○己が智を多しとし。他人の智を惡志
せし。此人一生智不至るあたら 同

○自敬へば則人之を敬ふ。自慢まらば則人之を慢る同上

○公道とて人小對して必為すべき諸件を行ふを以ふ勸善訓業

○善小循ぬ者ハ。戲言と雖も誹謗為其あつたあつた 同

○爰延曰く。善人と同しく處れど。則日小嘉訓を聞さ。惡人に従ひ遊べど。則

日。小邪情を生む慎思録

第四章

○凡客と為つた。故有る小非せむ。緩坐おて時を失ひ。主人をして倦怠せしむむらば慎思録

○人の心を知りて後交るべし。知らざれば友を失れば後悔あり大和俗訓

○西諺に曰く。惡人より愛せらるゝは。

悪まるゝと多危志

○身を終るまで路を譲れど九。百歩を枉ぶ。身を終るまで畔に譲じど九。一段を失む小學

○人我に對して過チ阿らば。心を廣くしてあるべし。我身に過チあらむ。心を小おしてせむべし大和俗訓

○我より多善を施さば。彼より亦

善を以て報ゆる事を望むべからば

第五章

○多言ふれば則チ道チ不背き。多欲ふれば則チ生を傷ふ省心雜言

○纔言ハ巧チと不。佞言チ甘く。忠言は直之。信言チ寡志同

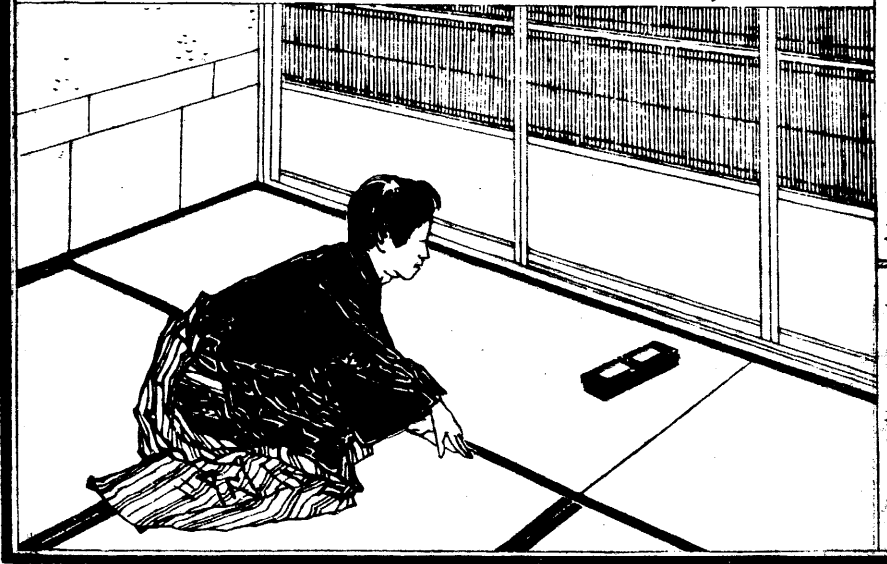
○多言利を得るは。黙して害ふチ不如

うん同

小倉書川集 卷之三 三十一百集

一語の過を莫大の禍とあり。一事の失も終身の憂也。ある。慎まざるべからば。大和俗訓。易に曰く。言行は君子の樞機。樞機は榮辱の主あり。

○一言の過を莫大の禍とあり。一事の失も終身の憂也。ある。慎まざるべからば。大和俗訓。易に曰く。言行は君子の樞機。樞機は榮辱の主あり。



○自ら事此偽あるを知らず信誠あり

と言ふ哉。虚誕を説くと云ぬ。勸善訓蒙

○常々虚誕を説者也。時有りて眞實此

とを言ふと雖も人之を信受せん。同上

○喜に乗じて多言を爲すべからば。快小乗

者。事易くすべからば。讀書録

○善を爲むを惡を捨法る不如何を。過

哉。救ふを非を省る不如何を。雑言

小倉山川集 卷之三 二 雑言

○ 匱しからざるを欲せざれば則博く施せ。

長く樂んと欲せざれば則分を守せ 同上

○ 自満了者ハ敗れ。自矜る者も愚。自賤

ふ者も忍ぶ 同上

○ 善ハ小なりて益ありと謂べからん。

不善ハ小なりて傷ありと謂ふべ

からん 賈誼新書

○ 之を毫釐不失せられむ。繆るハ千里を

以てん。深之戒慎

必為 二程全書

○ 人も巧を以て天

に勝ち。天も直き

を以て人ハ勝法

同上

第六章

○ 怠惰ハ勉強ハ敵



あり。浪費ハ節儉ニ敵あり。放逸ニ修養の敵あり。弗勒明修身學

○己を責むる身脩まる。人を責むるは恨らるる事あり。大和俗訓

○礼記に曰く。玉琢るるれば器を成さず。人學むるれば道を知らん。

○程子曰く。懈怠一多び生ずれば。則是自棄自暴あり。初學知要

○怠惰ニ乃衆人の通病。情勤を是衆人ニ良藥同上

○夫人勤まざれば。則百事成る。成るは百福生ず。惰れば。則百事成る。成るは百禍至る。同

○志士も常ニ時を惜しむ。愚者も常ニ時を廢ん。同

○西諺に曰く。今日の後ハ今日あり。又

曰く。今日此一時を。明日乃二時をり
貴し

○西諺不曰く。許多を做すべき事あり
了。之を勉め做さんと欲する人ハ。必
許多乃光陰を尋出をせし

○才多天に受る者おれども。是を成
全するを自脩の功不頼るをおれど。
天才を恃まざるを人力を盡すべき

あきあり 歐米立志金言

○失敗は事を真正の勉強する人此為
不々。極善乃教訓とあり 立志編

○陶淵明此詩不曰く。盛年重て来らば。
一日再び晨あり難志。時不及んで當
に勉強をせし。歲月人を待たば 初學
知要

○顔之推曰く。光陰惜むべし。之を逝水
不譬ふ 顔氏家訓

○ 函莽に〜て煩を厭ふ者も決して成
了の理あり 呂氏童蒙訓

○ 聖人は尺璧を貴ばざりて。尺寸の陰
を貴ぬ 淮南子

○ 朱子曰く。不急に雑務を以て。空しく
光陰を費さむ。則是終に書を讀む時
あり

○ 名を成るに毎に窮苦に日に在る事

を敗るは。多々得意の時不傳家寶因不

○ 西諺に曰く。出る時を為さばきよを

思ひ。歸る時を為さば多きを思へ

○ 西諺に曰く。悦樂を勉強し因て得る

所以賞典あり

小 脩身訓蒙卷二 終

明治十四年十二月十九日出板版權御願
同十五年一月廿一日版權免許
同 年三月 刻成發兌

明治十四年十二月十九日出板版權御願

同十五年一月廿一日版權免許

同 年三月 刻成發兌

定價五錢八厘

京都府平民

編輯者 平井義直

上京區第廿組金町百六十五番地内番

京都府平民

出版人 杉本甚助

下京區第五組辨慶石町六十番地

小學修身訓蒙

安原時太郎 閱
平井義直 編輯

三

175
6
214

東
新
一

館藏書會育教本日大			
一	四	一	八
五	五	三	函
冊	號	架	

K110.1
180
3